

点検・評価シート（2）

健康都市やまとMANAB I 計画

（大和市生涯学習推進計画）

（教育委員会所管分）

※令和5年度に本計画の計画期間が1年間延伸されたことに伴い、最終目標値が変更されています。

◆ 評価の基準について ◆

○施策目標の「総合評価」

A評価	施策目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れていない。



○個別目標の「達成度」

A評価	個別目標の進捗状況が、令和6年度に期待された結果を上回っている。
B評価	個別目標の進捗状況が、令和6年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	個別目標の進捗状況が、令和6年度に期待された結果を下回っている。

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

市民の学びを推進するにあたっては、多世代にわたって誰もが自らの意思で学び始めるきっかけづくりが重要です。

そのために、誰でも気軽に学習できる場を提供することで、学習への興味や意欲を湧き立たせ、より多くの人々に自己の充実、生活の質的向上をもたらすことができます。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

- ・人口減少社会の到来、人生100年とも言われる長寿社会の到来という新たな時代の中で、生涯学習においても、社会状況の変化に対応していく必要があります。
- ・特に、退職後、地域とのつながりが少ない方や同居家族のいない方などの「おひとり様」を対象に、学習機会や「居場所」の提供などを進め、これらの人たちが充実した毎日を過ごせるよう支援していく必要があります。
- ・そこでは、人と人との新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上が期待されます。

【めざす姿】

市民の学びに関わる機会が増えている。

【施策の内容】

- ① 「健康都市大学」を開講します。
 - ・「大和市民大学」を大幅にリニューアルし、市や関係団体等が実施する学習機会を、共通の仕組みで一つにつなぐ「健康都市大学」を開講します。
 - ・そこでは、市民が講師となり市民に教授する講座等を充実させるなど、学びを通じた、市民の居場所づくり、交流の場づくりを目指します。
- ② 市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
 - ・「文化創造拠点シリウス」を中心に、「市民交流拠点ポラリス」、各地区学習センターなどを市民の「居場所」としても活用し、学習に触れる機会を提供します。
- ③ 誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。
 - ・主に、学習センターの一部の会議室等を、誰でも自由に学習できるスペースとして開放し、市民が気軽に利用できる学習の場を提供します。
 - ・「シリウス」や「ポラリス」に設置している市民交流スペースをはじめとした、誰もが自由に利用できるスペースを提供します。
- ④ 気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。
 - ・いつでも、だれでも、だれとでも利用できる図書館を市民の「居場所」として提供するとともに、一人ひとりの知的好奇心に応じた学習の場を提供します。

個別目標1-(1)を達成するための主な取組

1 健康都市大学の開講（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）※2023年度で終了

【関連する施策の内容】①健康都市大学を開講します。

②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

- 健康都市大学は、市民自身が持つスキルや知識、経験をもとに、市民が講師を務める「市民でつくる健康学部」、市や外郭団体などが市民向けに実施している講座から成る「人の健康学部」と「まちと社会の健康学部」の3つの学部で構成していました。
- 健康都市大学の特徴的な学部である「市民でつくる健康学部」は、いつでも誰でも気軽に参加できる市民講師の講座を開催しており、2023年度は191回の開催で、延べ5,312人の方にご参加いただきました。
- 活動指標と成果指標の数値を用いた1回あたりの受講者数を比較してみても、2022年度は27.5人、2023年度は27.8人と同水準を維持しており、市民の学びの意欲にこたえるとともに、文化創造拠点シリウスを市民の「居場所」として定着させる役割を果たしたと考えます。
- 一方で、指定管理者との事業重複や受講者の固定化等、さまざまな課題が見つかったことから、事業見直しのため、2023年度をもって事業を終了しました。
- 「人の健康学部」や「まちと社会の健康学部」については、市や外郭団体等が実施する講座などをまとめた「健康都市大学ガイドブック」を発行し、学びの情報の一元化と、分かりやすい情報提供に努めました。

活動指標

※1 活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○健康都市大学の開講数	回	—	309	96	251	236	※2 191	—	363

※1 計画策定時（2017年）は、健康都市大学は事業創設前のため実績なし。

※2 健康都市大学は、事業見直しに伴い、2024年1月末日をもって終了したため、開講数が減少している。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○健康都市大学の受講者数	人	—	9,535	2,419	6,686	6,503	5,312	—	2,600

今後の課題

- 2024年度からは健康都市大学に代わり、市民が講師となって、自らの豊富な知識や技術、経験を地域へ還元し、新たな趣味や仲間づくりといった、生涯学習を始めるきっかけを創出することを目的とした「ここから マナ☆スタ」を開始しました。
- 「ここから マナ☆スタ」では、講座を通して、市民の方の「居場所づくり」だけではなく、参加した全ての方が自発的に学ぶ意欲を高めていけるように事業を行っていきるとともに、健康都市大学の開講以降に生じた課題の改善に取り組みながら、事業の最適化を図っていきます。

2 学習センターにおける学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

- 【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
③誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。

- ・文化創造拠点シリウス2階の市民交流ラウンジ（有料）を個人の勉強や読書、リモートワークの場として提供したほか、シリウス・ポラリスでは予約せずに誰もが利用できる市民交流スペース、各学習センターでは当日の団体利用の無い空き会議室を有効に活用する学習室開放を行いました。
- ・2024年度は、つきみ野学習センターの大規模改修工事が終了したこともあり、1年を通して学生をはじめとする多くの方に学習の場及び居場所を提供できました。
- ・成果指標である市民一人当たりの学習センター来館回数については、2023年度の数值こそ下回ったものの、最終目標値を上回る来館回数となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	2023	2024	
○学習センターの開館日数	日	生涯 363	332	272	359	359	360	359	359
		ポラリスー	328	277	359	359	360	359	359
		つきみ野 308	326	267	270	※4 0	※4,5 331	357	357
		桜丘 131	326	267	357	357	358	357	357
		渋谷 346	317	258	346	346	347	347	346

- ※1 計画策定時（2017年）、ポラリスは開館前のため実績なし。地区館は直営のため月曜休館。また、桜丘学習センターは改修工事のため2017年9月～2018年3月まで休館。
- ※2 2019年度は、2019年10月12日（土）大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日（日）～31日（火）があった。
- ※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日（水）～6月30日（火）（渋谷図書館は5月31日（日）まで）があった。
- ※4 つきみ野学習センターは、2021年12月29日（水）～2023年4月9日（日）まで大規模改修工事のため休館。
- ※5 つきみ野学習センターは、2023年7月18日（火）～8月4日（金）までは空調設備追加工事のため休館。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○市民一人当たりの学習センター来館回数	回	4.74	8.64	2.28	5.72	5.96	7.37	6.80	6.55

今後の課題

- ・引き続き、利用者が快適に利用することができるよう有効的な活用方法について検討していきたいと考えます。また、利用者の皆様の理解を得ながら、団体やサークルにとって安心して活動できる環境を整えていきます。

3 図書館における学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

④気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。

- ・文化創造拠点シリウスを中心とした3つの図書館において、それぞれの地域の特性に合わせた施設運営を行っています。
- ・中でも大和市立図書館は、文化創造拠点シリウスの「全館まるごと図書館」というコンセプトのもと、館内には神奈川県下で最も多い977席の座席を配置し、館内どこでも図書館の本を読むことができる居心地のよい空間づくりに努めました。
- ・2024年度は、新型コロナウイルスの影響から回復する社会状況の中で、変化する市民の活動状況を見極めながら市民の学習の場、居場所を提供しました。
- ・成果指標である、図書館の来館者数は、文化創造拠点シリウスが約294万人、中央林間図書館が約81万人、渋谷図書館が約15万人で、合計約390万人となっており、最終目標値には届かなかったものの新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつあります。
- ・利用者の要望が高い座席の確保について、一昨年から試行した休日の読書室の座席入替制は、大きな混乱もなく利用者に浸透しています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	2023		2024
○図書館の開館日数	日	本館 363	332	272	363	363	364	363	363
		中央林間一	332	277	363	363	364	363	363
		渋谷 308	317	287	346	346	347	347	346

※1 計画策定時（2017年）は中央林間図書館は開館前のため実績なし。

※2 2019年度は、2019年10月12日(土)大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日(日)～31日(火)があった。

※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日(水)～6月30日(火)（渋谷図書館は5月31日(日)まで）があった。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○図書館の来館者数	人	3,053,751	4,002,361	1,922,640	3,010,193	3,429,076	3,763,607	3,909,409	4,218,787

今後の課題

- ・2021年度からは、全館一括での指定管理者による運営体制が整ったことから、それぞれの図書館が地域に根差した特徴ある図書館としての機能を十分発揮するだけでなく、各図書館が連携し、横断的な図書館サービスの展開をより進めていく必要があります。
- ・休日の閲覧席の確保について、読書室座席入替制のほか、必要に応じて健康テラス席の活用など指定管理者と対策等を協議していきます。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

[達成度]

B

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

- ・人口減少社会の到来をはじめ、グローバル化や情報化の進展など、今日の社会状況は目まぐるしく変化しています。
- ・このような社会を生き抜き、充実した生涯を送ることができるよう、一人ひとりの生涯各期に合わせた学習機会の提供が必要です。

【めざす姿】

乳幼児から高齢者まで全ての世代にわたって、意欲的に楽しく学習する市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 乳幼児期に対応する学習機会を提供します。
 - ・乳幼児の健全な心身と生活の基礎を養うとともに、保護者の子育てに関する悩みや不安などが軽減されるような学習機会を提供し、家庭教育支援を推進します。
 - ・保護者同士の交流の場や学習の場を設けて、乳幼児と保護者がともに学び、成長できるような機会を提供します。
 - ・様々な読書活動を通じて乳幼児と保護者がさらにふれあいの時間を持つきっかけとなるような機会を提供します。
- ② 青少年期に対応する学習機会を提供します。
 - ・「社会を生き抜く力」を養うために、生涯にわたって学び続ける意欲や、自らが考え、判断し、行動できる資質や能力を身につける学習機会を提供します。
 - ・青少年が、社会体験や自然体験など様々な体験により、自主性や協調性を養うことができる学習機会を提供します。
- ③ 成人期に対応する学習機会を提供します。
 - ・家庭、地域、職場での生活を豊かにするため、趣味や教養、就労などに関する学習機会を提供します。
 - ・高齢期に向けて、新たな生きがいの発見や地域とのつながりを促す機会、また健康づくりのための学習機会を提供します。
- ④ 高齢期に対応する学習機会を提供します。
 - ・高齢化に伴う新たなライフスタイルに対応した、趣味や教養、健康に関する学習機会を提供します。
 - ・学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいを持つとともに、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような学習機会を提供します。

個別目標1-(2)を達成するための主な取組

1 乳幼児期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①乳幼児期に対応する学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、乳幼児期における問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を市や地域、学習団体と連携して提供し、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・2024年度は生涯学習センターで「イヤイヤ期ふえすていばる」を初めて開催しました。1歳半から3歳頃までの子どもとその保護者を対象に、写真の展示やヨガ体験、相談会などを3日間行い、学習の場を通じた同年代の子どもを持つ保護者同士の交流の場を提供しました。
- ・「イヤイヤ期ふえすていばる」では、イヤイヤ期の子どもの気まぐれな行動にも対応できるよう、予約不要のワークショップや自由に遊べる空間等を設け、保護者のストレス軽減にも配慮しました。なお、自由に遊べる空間については、年齢の異なる兄弟も一緒に遊べるようにしたことで、異年齢の子ども達の交流や保護者どうしの情報交換の機会にもなりました。
- ・また、子どものイヤイヤ期という共通の悩みを持つ、他家族との共感・安心感を生む目的で、イヤイヤしている様子の子どもの写真を展示する「イヤイヤ期コレクション」を行いました。写真の応募に関しては市内外を問わず多くの応募があり、「イヤイヤ期ふえすていばる」には3日間で延べ600人弱が来場し、来場者からも「これからもこういったイベントを実施してほしい」という感想が寄せられました。
- ・つきみ野学習センターで全6回開催した「おいでおいで♪」では、1歳頃の乳児とその保護者に居場所と交流の場を提供することで、子育てに関する悩みの共有や、同年代の子どもどうしのふれあいにつなげる機会を積極的に創出しました。
- ・講座では手遊びや歌、リズム体操や工作など参加する子どもの月齢に合わせた内容を企画し、実施しました。
- ・アンケートでは「同じくらい子ども達が集まって交流でき、とても楽しかったです」「同年代のママとあえてよかった」「少し月齢が上のお子さん達の様子を拝見できて参考になった」など、大人も子どもも楽しめる講座となっただけではなく、育児に関する情報を提供し、保護者の不安を軽減する場にもなりました。
- ・図書館では、本市の子ども読書活動推進計画として位置づけられる「こども読書よむ読むプラン」に基づき子どもの読書活動推進のための様々な取組を進め、そのなかで乳幼児期の読書活動を推進するための各種おはなし会（親子のおはなし会、赤ちゃんおはなし会）を開催しました。
- ・また、市の母子保健を担当する部署と連携し、全ての子どもに人生最初の本との出会いを作るためのブックスタート事業を4か月児健診時に実施し、2024年度においては1,759組の親子に絵本を届けました。2022年度10月からは、ブックスタート事業のフォローアップとして、3歳6か月健診児を対象にセカンドブック事業を開始し、2024年度は親子への絵本プレゼントを1,029件実施しました。
- ・成果指標である、おはなし会の延べ参加者数は増加を続けており、新型コロナウイルス感染症の流行以前の水準へと戻り、最終目標値を上回りました。



イヤイヤ期ふえすていばる



クリスマスとくべつおはなし会

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○乳幼児期に対応する講座等の開催事業数	事業	46	35	23	21	15	21	20	40
○おはなし会の開催回数	回	282	270	130	173	238	288	290	255

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者数	人	6,927	10,818	1,934	3,746	2,470	11,333	13,007	7,801
○図書館や保育園などのおはなし会の延べ参加者数	人	3,103	5,330	1,739	2,979	3,454	5,014	5,099	3,420

今後の課題

- ・対面の講座では、乳幼児とその保護者同士の生身の交流を促すことで、子育て家庭の孤立を防ぎ、悩みや不安が軽減されるような学習機会を提供します。
- ・今後は遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのないオンライン講座についても、対面での講座と並行して実施回数を増やしていきたいと考えます。
- ・新型コロナウイルスによる影響もほぼなくなり、指標によってはコロナ禍以前の数値を超えているものもあり、保護者や子どもが絵本と出会う機会を再び創出することができました。最終的には目標値を大きく上回る人数の参加がありました。

2 青少年期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課、こども青少年みらい課）

【関連する施策の内容】②青少年期に対応する学習機会を提供します。

- ・青少年期におけるさまざまな問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を提供しました。また、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・学習センターでは、青少年期の子どもを持つ保護者のための児童家庭教育学級（セミナー）を実施したほか、青少年期の児童・生徒を対象に、体験型の講座を実施しました。
- ・生涯学習センターでは児童家庭教育学級「思春期をしなやかに乗り越えよう！レジリエンスを高める接し方講座」を開催しました。この講座は困難や逆境に直面しても立ち直り、回復する力、いわゆるレジリエンスを高める接し方等を小中学生の保護者が学ぶことを目的として実施しました。
- ・またこの講座は、地域の子育て世代が交流する機会となることも目的としています。前年度の児童家庭教育講座の参加者から募った講座企画委員の方々が企画するという取り組みは、前年度の講座受講者たちの、自ら企画を行うことで現役子育て世代の悩みに合った講座を作りたい、という意欲によって2021年度から始まりました。
- ・企画立案、講師選定、広報制作、周知と集客、および当日の運営について、かつての学習者が自ら講座の担当を務めることで、自分の得た学びを他者に伝え、地域に広げていくことができました。また、企画立案や当日の講座運営などを通して、子どもとの接し方や子育てをめぐる考え方について新たな視座を得て、自らの学習を深める結果にも繋がられました。

- ・講座受講者からのアンケートでは、「子どもとの距離感を見直すことができ、子どもへの過度なストレスを与えることがなくなりました。楽しい会話が増えたり、子どもが安心しているのを感じるが増えました」「子どもとの接し方を振り返る良い機会になりました」などの声があり、講座の内容で学んだことを自分事として捉え、実践に移している方が見られました。
- ・図書館では、図書館見学や図書館員の仕事を体験する一日図書館員などの事業を実施し、図書館をより身近に感じてもらえるような取り組みを行うことができました。
- ・2024年度のユースクラブは、青少年が企画から運営まで体験できる機会として、県内の野外活動センターにおける野外炊事やレクリエーション研修、また、市内施設を活用した工作体験などを提供することで、自主性や主体性を育み、さらにはグループでの活動を通して協調性や社会性を身に付けさせる取り組みを行いました。
- ・2024年度のこども体験事業は、宿泊研修先を福島県会津地域として事業を実施しました。参加者の子どもたちは、訪問先の歴史的背景を学ぶと共に、農泊体験では農家の想いに触れるなど、様々な体験を通して、学ぶことの大切さや食べる事の意味について考えるきっかけを得ることができました。
- ・成果指標である、青少年期対応講座等の延べ参加者数と、ユースクラブの活動日数は、前年度より増加しており、コロナ禍前である2019年度の水準へと徐々に戻りつつあります。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○青少年期に対応する講座等の開催事業数	事業	28	21	10	13	11	12	15	28
●ユースクラブが知識や技術を習得するための会議や研修の実施日数	日	26	22	11	17	27	22	22	27
●こども体験事業の活動報告パネルの展示日数	日	151	288	0	0	84	※1 682	※2 89	151

※1 2022年度までは巡回展示、2023年度より一定期間の一斉展示(2023年12月1日～12月22日までの22日間×31校)に変更

※2 2024年度は、ベテルギウス等でのパネル展示に加え、学校については展示ではなく市内各小中学校の小学4年～中学3年生に活動報告チラシを配布

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○青少年期に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,330	1,070	342	416	592	650	1,999	1,498
●ユースクラブの活動日数	日	90	79	22	39	70	70	72	92
●こども体験事業参加者数	人	29	25	0	0	17	30	30	30

担当：○図書・学び交流課、●こども青少年みらい課

今後の課題

- ・対面の講座では、現地に行って生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感できるような講座を考えていきます。
- ・今後は遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのないオンライン講座についても、対面での講座と並行して実施していきたいと考えます。
- ・新型コロナウイルスの影響により、長期間にわたり活動が中止・縮小されていたことを受け、事業を行う団体から離れていった会員数を新たに確保していく必要があります。

3 成人期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】③成人期に対応する学習機会を提供します。

- ・家庭・地域・職場で活用できる、自己啓発・能力開発等の講座を実施しました。
- ・渋谷学習センターでは、「プロフェッショナルにまなぶ仕事術 Vol. 2 ～社長の極意～」を実施しました。
- ・本講座では学習センター利用の少ないビジネス層を対象に、大和市ゆかりのビジネスパーソンとのトークセッションを通し、受講者自身の仕事に対する意識転換を図る機会を提供しました。また、本事業は昼間受講が出来ない層が、受講するきっかけとなるよう夜間に開催されました。
- ・講座終了後のアンケートでは、「講師の仕事に対する姿勢と、行動力の源泉となる部分についてのお話がとても印象的でした」「地域にゆかりのある方が登壇されるのは地域を持ち上げる、知っていただく、繋げるという役割があり、とても良い企画だと思い参加しました」「普段繋がらない方と繋がれたのも良かったです」といった声が寄せられました。
- ・講座終了後に、交流の時間を設けたところ、受講者が講師に質問をしたり、受講者間で名刺交換を行ったりする様子が見られました。
- ・北部文化・スポーツ・子育てセンターでは、利用者が施設の花壇づくりを行う「ガーデンデザインのコツ～ポラリスに花だんを作ろう～」を開催しました。この講座は、自分の住む地域の人との交流や学習センターへの愛着を持ってもらうことを目的としており、植物の植え方や土づくり等を専門の講師に学びながら、利用者による維持・管理が可能な花壇をつくりました。
- ・講座終了後のアンケートでは「今まで分からなかったことがよく理解できました。これからのガーデニングの参考にさせていただきたいと思います」「駅に行くときに通るポラリスの花壇を作るお手伝いができること知って、家族で参加しました。これからポラリスの前を通るのがとても楽しみになります」など、園芸について多くの学びがあったことや、家族や地域の人とポラリスの花壇づくりを一緒にできたことを喜ぶ声が寄せられ、満足度の高い講座となりました。
- ・また、講座後に継続して花壇の維持・管理を行うボランティアを募ったところ、9名の申し込みがありました。その後、2024年度の事業の一つとして「ポラリスガーデンボランティア」を全18回実施し、参加したボランティアは植物に関する知識や手入れの方法を学びながら、雑草の除去や土づくり、花壇の手入れ全般を行いました。継続的に活動を行うなかで、ボランティアどうしが顔見知りになって交流が深まり、「ポラリスガーデンボランティア」の他にも施設で行われている講座やサークルに参加するなど、生活を楽しみ生き生きと活動する様子が見られるようになりました。



プロフェッショナルにまなぶ仕事術
Vol. 2 ～社長の極意～

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○成人期に対応する講座等の開催事業数	事業	16	12	6	7	10	8	10	15

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○成人期に対応する講座等の延べ参加者数	人	613	594	245	325	587	401	755	690

今後の課題

- ・対面の講座では、現地に行って生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感でき、かつ、講師や他の受講者との交流を通して、自らの仕事や生活に対する新たな気づきや、より良いものへ変えていくための学習のきっかけとなるような講座を考えていきます。
- ・今後は遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数や受講時間を限定されることのないオンライン講座についても、対面の講座と並行して実施していきたいと考えます。

4 高齢期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】④高齢期に対応する学習機会を提供します。

- ・高齢期においても元気に、生きがいづくりや健康づくりに取り組むための講座を実施しました。
- ・生涯学習センターでは、語学を学びたいシニア世代の受講者と、限られたコミュニティにこもりがちな市内在住の外国籍住民をつなげ、中国語と中国の文化について学ぶ「ともに学ぶ ともに育む 中国語入門講座」を全10回開催しました。
- ・この講座は、簡単な中国語の会話のほかにも気功、太極拳等を実際に体験することで、講師と受講者が互いの異文化への理解を深め、また地域に住む外国籍住民の現状に対する気づきを促すことをねらいとして実施しました。
- ・受講後のアンケートでは、「中国の言葉だけではなく、いろいろな文化も知れて、とても興味がわきました」「今までの人生の中で、日本以外のことをきちんと学んだり興味を持ったことがなかったので、今後はいろいろなことを知っていききたいなと思えました」といった声が寄せられました。
- ・講座終了後に受講者が自主的な学習グループを立ち上げ、学習センターで継続的な学習活動を行うようになったことから、本講座の開催はシニア世代の市民の人生をより豊かなものとし、学び直しや新たな学びに挑戦する意欲、生きがいを持つきっかけになったと考えます。
- ・成果指標である、高齢期対応講座等の延べ参加者数はコロナ禍で大きく減少しました。また、2024年度の数値が下がったのは、ポラリスで実施していた健康体操講座が、参加者の自主的な活動へ発展し、サークル化したことで、指定管理者主催の講座から外れたことが要因となっています。
- ・最終目標値の達成には至らなかったものの、学習センターでは市民の継続的かつ自主的な活動の支援を目的としています。今後も高齢期の市民に向けた講座等を行う団体の、継続的かつ自主的な活動につながるような学習機会を提供していきます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○高齢期に対応する講座等の開催事業数	事業	10	11	10	8	8	8	8	11

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○高齢期に対応する講座等の延べ参加者数	人	693	1,069	479	371	545	1,067	415	780

今後の課題

- ・対面の講座では、現地に行って生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感でき、かつ、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような講座を考えていきます。
- ・今後は遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数や受講時間を限定されることのないオンライン講座についても、対面の講座と並行して実施していきたいと考えます。
- ・ただし、オンライン講座には、デジタルディバイドをめぐる問題も付随するため、引き続き、各地区の学習センターにサテライト会場を用意するなどして、パソコンやタブレットといったデバイスを所有していない方にも配慮した実施方法を検討する必要があります。

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

[達成度]

B

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えることが求められています。
- ・急変する社会状況や生活環境に対応した学習機会の提供も必要です。

【めざす姿】

自らの興味や社会状況に合った学習をすることにより、
心や生活が充実した市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 市民ニーズに応える学習機会を提供します。
 - ・市民の学習ニーズを的確に把握し、それに対応した学習機会を提供します。
 - ・受講者アンケートなどにより、変化する学習ニーズの把握に努めます。
 - ・指定管理者のもつ民間ノウハウを活用し、充実した学習機会を提供します。
- ② 社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。
 - ・地球環境の保全、国際理解、男女共同参画社会の実現、情報化社会への対応など、市民が社会生活を営む上で理解し、身につけておくことが望まれる課題についての学習機会を提供します。

個別目標1ー(3)を達成するための主な取組

1 受講者アンケートの実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民ニーズに応える学習機会を提供します。

- ・学習センターで実施した各講座においては、オンライン講座を含め、講座終了後にアンケートを実施し、企画意図に合わせた評価指標を設け、実施効果を測りました。
- ・毎年、各学習センターでは、様々なジャンルの講座を開催しています。2024年度はアンケート調査の実施回数が前年度より減少しましたが、成果指標であるアンケートによる参加者の満足度については、最終目標値を上回る数値となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○アンケート調査の実施回数	回	204	160	110	117	120	375	231	150

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○アンケートによる参加者の満足度	%	94	98	98	98	92	97	98	94

今後の課題

- ・参加者の満足度について、昨年度より増加し例年並みとなりました。引き続き満足していただけるよう、内容面でのいっそうの充実を目指したいと考えます。また、講座に関するアンケート調査のほかにも、いかなる分野の学びに興味を持っているか、関連する分野において次はどういった講座を受けてみたいかなど、多様な市民ニーズを把握し、高水準の満足度を得られる事業展開を図る必要があります。

2 現代的課題対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。

- ・多文化共生や防災、環境など、様々な現代的課題をテーマとした学習機会の提供に努めました。
- ・生涯学習センターでは、18歳以下の子どもを持つ保護者や青少年育成に関わる方を対象に、子どもたちが自由にのびのびと生きられるように、知っておくべき問題や法的知識を学ぶ「子どもが子どもらしくあるために～法律を味方にして～」を全3回開催しました。
- ・講座では現代の「いじめ」の特質を踏まえた対応策や発見のポイントのほか、LGBTQ に対する国の方針と自治体の対応を実際の判例を用いて解説しました。
- ・受講後のアンケートでは、「いじめを考える良い機会となりました」「事例や体験談をお話いただいて、とても分かりやすく勉強になりました」などの声が寄せられました。また、講座終了後に行った懇親会に受講者が参加し、今後は不登校等の子どもを取り巻く問題について受講者どうしで学び合いたいという意見が出るなど、受講者の意識の変容が見られました。

- ・その他、2023年度に引き続き、渋谷学習センターで開催された「江戸楽アカデミー」や、つきみ野学習センターの「フラワーサポーター花壇活動」のような講座に多くの方が参加された結果、講座等の延べ参加者数は2023年度から大きく増加し、最終目標値を上回りました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○現代的課題に対応する講座等の開催事業数	事業	39	29	18	28	24	38	44	38

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○現代的課題に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,615	1,992	646	2,008	1,700	4,086	4,747	1,819

今後の課題

- ・対面とオンライン、それぞれの強みを活かした講座を用意し、地域課題と現代の社会状況の課題に関連した学習機会を提供するため、引き続き5館でテーマを精査しつつ事業展開していく必要があります。また、行政においても関連部署との連携に努めます。

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

[達成度]

A

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

- ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送れるよう、日常的にスポーツに親しむことができる環境や機会を提供することが必要です。
- ・また、市民の健康に対する意識の高まりに応じた健康に関する学習機会の提供も求められます。

【めざす姿】

日常的にスポーツに親しみ、健康的に暮らす市民が増えている。

【施策の内容】

- ① スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。
 - ・市民の自発的なスポーツ活動を奨励する教室やイベントなど、スポーツに関する様々な学習機会を提供します。
 - ・スポーツの大会や試合などの観戦の機会を提供し、市民のスポーツへの興味、関心を高め、健康への意識啓発を図ります。
 - ・スポーツを通じた健康づくり、地域の絆づくり等を推進させ、老若男女を問わず市民の誰もが生涯にわたって豊かな活動を送れるようにします。
- ② 健康維持・増進につながる学習機会を提供します。
 - ・健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながるような健康維持、増進に関する学習機会を提供します。
 - ・食事や運動だけでなく、市民ニーズに応じた健康に関する様々なテーマによる学習機会を提供します。

個別目標1—(4)を達成するための主な取組

1 スポーツ教室等の開催（市長部局所管 担当:スポーツ×ライフ課）

【関連する施策の内容】①スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。

- ・スポーツ教室は、日ごろスポーツをする機会の少ない人もスポーツの楽しさを経験し、スポーツを習慣化することを目指しています。
- ・実施種目については、各種団体が独自で取り組むことが難しい種目や、年齢や、障がいの有無に関わらず全ての人がスポーツに親しめるきっかけとなるような種目を選定しています。
- ・実施後のアンケートでは、教室の満足度が高いと窺える回答が多く、2023年度と比較して参加者数も増加しています。
- ・市民のスポーツ観戦機会の提供については、トップレベルの大会等を市内のスポーツ施設に誘致し身近な場所でハイレベルなスポーツ観戦の機会を提供しています。2024年度は、関東大学ラグビー対抗戦や、バスケットボールのB3リーグを誘致し、大和スポーツセンターにて開催しました。
- ・また、女子サッカー観戦デーとして、大和シルフィードのホームゲーム11試合を、毎年なでしこスタジアムにて開催しています。
- ・スポーツ観戦機会の提供により、身近なトップアスリートが活躍する姿をみることや接すること、一体となって応援することでスポーツへの興味が高まり、地域への愛着や誇り、絆を深めることにつながります。



スポーツ教室
(マリンスポーツ教室)

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
◇スポーツ教室 開催延べ教室 数	教室	14	16	6	4	15	14	17	14
◇スポーツ観戦 機会の提供数	回	12	21	7	7	12	14	14	12

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
◇スポーツ教室 延べ参加者数	人	1,062	722	331	206	611	507	1,117	1,230
◇年1回以上直 接会場でスポー ツを観戦してい る人の割合 ※1	%	34.3	—	—	14.9	—	21.6	—	37.8

※1 年1回以上直接会場でスポーツを観戦している人の割合については、大和市スポーツ推進計画において実績を把握する年度が決められていることから2019、2020及び2022、2024年度の実績はありません。

今後の課題

- ・実施後のアンケートで高評価を受けた種目や、障がいの有無に関わらず、すべての人がスポーツを分け隔てなく親しめる、共生社会の実現に貢献するような公益性の高い種目については継続し、参加者に減少傾向がみられる種目については見直しを行いながら、今後もスポーツへの興味・関心を醸成できるような、魅力のある事業を提供することが求められます。
- ・各種スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブと連携を図り、スポーツが続けられる環境を整える取り組みが必要です。
- ・2024年度の参加者数について、教室内容に応じて定員数の検討や、他事業と同時に開催する等、今まで以上に参加しやすい環境を整えたため、コロナ禍以前の人数まで回復することができました。しかしながら、最終目標値には到達できなかったため、今後もイベント情報をより広く提供する等、さらに参加を促進する方法を検討する必要があります。

2 健康維持・増進に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②健康維持・増進につながる学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながる機会を提供しました。
- ・桜丘学習センターでは高齢期の市民を対象に、ここ数年増加傾向にある「ヒートショック」の危険性やメカニズムに関する理解を深め、受講者の生活環境や習慣を見直すきっかけとすることを目的とした「シニアセミナー 冬のヒートショック～メカニズムと予防のポイント～」を開催しました。
- ・前半は大和徳洲会病院の医師による座学、後半は理学療法士による予防のための簡単な運動について解説を行いました。講座では、



シニアセミナー 冬のヒートショック
～メカニズムと予防のポイント～

講師が参加者に問いかけをしながら進め、参加者も自らの健康に対する不安や疑問を積極的に質問するなど、活発なやりとりが見られました。

- ・講座終了後のアンケートでは「ヒートショックという言葉はよく耳にしていたが、具体的にどのように対処するのかということが分かったので、これから気をつけていきたい」「お医者さんから直接アドバイスをもたらしたのは心強かったです」という声があり、参加者14名中11名が講座で学んだ予防法を「実践しようと思う」に回答しました。
- ・成果指標である健康に関する講座等の延べ参加者数は、2024年度には大幅に下がりましたが、これはポラリスで実施していた健康体操講座が、2024年度に参加者の自主的な活動へ発展、サークル化した結果、指定管理者主催講座から外れたことが要因となっています。当該サークルについては現在も会員数を増やし、継続的かつ自主的な活動を行っています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○健康に関する講座等の開催事業数	事業	7	6	5	6	5	5	4	10

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○健康に関する講座等の延べ参加者数	人	125	267	304	311	477	800	311	141

今後の課題

- ・コロナ禍を経て、健康維持・増進に関する講座の需要は高く、今後ますます増加していくものと予想されます。講座の形式については、デジタルディバイドの問題を考慮するなら、パソコンやタブレットの所有の有無を問わずに受講できる対面講座に利点がありますが、その一方で、オンライン形式であれば会場には足を運びづらい方々にも学習機会を提供することができます。各地区の学習センターにサテライト会場を設けるなど、オンラインと対面、双方の利点を活かし、引き続き、健康づくりのための機会を提供していきたいと考えます。

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

[達成度]

B

個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

- ・心豊かで潤いある生活を送るには、文化や芸術に親しむことができる機会の提供が大切です。
- ・地域の歴史や伝統、文化を知ることが、郷土意識の醸成にも寄与します。

【めざす姿】

芸術や文化に関する学習機会や、歴史や伝統が受け継がれていくための学習活動が展開され、文化芸術に親しむ市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・音楽や演劇の発表会、芸術鑑賞の機会、芸術文化に関する講座など、市民が芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・芸術活動や文化活動を行う学習団体との情報共有及び連携を進め、学習団体の活性化、文化芸術活動の推進を図ります。
- ② 歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。
 - ・市民が伝統文化を知る機会の充実を図り、歴史や文化が後世に継承されていくための学習機会を提供します。
 - ・郷土資料や文化財を収集して保護し、調査研究を進めるとともに、展示や刊行物の発行といった形での学習機会も提供します。

個別目標1—(5)を達成するための主な取組

1 芸術文化に関する講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。

- ・各学習センターにおいて、芸術・文化に関する活動のさらなる充実を図るため、映画鑑賞会、コンサート、音楽史や美術史に関する講座を始めとし、陶芸、スケッチ、水墨画、楽器演奏、演劇などを実践する講座及び参加体験型のワークショップを開催しました。
- ・渋谷学習センターでは「演劇ワークショップ「あなた」と「わたし」「だれか」と「だれか」に」を開催し、小学3年生から70歳までの参加者が集まりました。
- ・この講座は幅広い年齢層の市民に向けて、演じる側として演劇に親しむ機会や仲間づくりを体験するとともに、演劇をあまり知らない方にも創造する楽しみ、枠にとらわれない自由な発想の演劇を知ってもらう機会・経験の場の提供を目的としました。ワークショップは初心者から参加できるものとしつつも、2023年度からよりステップアップした内容とするため、「A探求コース」と「B発表コース」の2コースを実施しました。
- ・「A探求コース」の参加者は、俳優のトレーニング方法を応用したシアターゲームをつかって、同じ空間にいる他の参加者を観察したり、相手の気分などを想像したりしながら、表現とはどのようなものかを探りました。絵画や彫刻の写真を選び、「自分がそのキャラクターだったらどんな風に歩くのか？」を各々で作って発表するという課題では、参加者が絵画と同じ格好をしたり、ポーズの意味や時代設定等を考えたりするなど、能動的に考え創意工夫する様子が見られました。

- ・「B発表コース」では、参加者が一緒に台本のないところから演劇をつくり、「だれか」に伝えることを目指しました。他の参加者の話を自身のものとして話す、それをチームで演劇として身体の動きや表情で表現するなどのワークショップを行いながら、初めて会った参加者同士で意見を出し合い、一つの作品を作っていました。
- ・アンケートには「初めて出会った方々の感覚や見え方を知り、自分の知らないことを知ることができた。自分の隠れていた部分も掘り起こすことができ面白かった」「皆が時間の流れとともに自由度を増していて、とてもよかった」「様々な表現方法があって、人それぞれのアプローチの仕方を学ぶことができたので、とても良い経験になりました」といった声が寄せられました。多様な世代がお互いを尊重しあい、多くの気づきを得る機会になったと考えます。
- ・また、本講座は、大和市在住の若手俳優をバックアップし、講師として教える機会・経験を提供する場でもあります。学ぶ側のみならず、教える側も講座経験を積むことで、自らの学びを深めることができました。
- ・芸術・文化に関する講座等への延べ参加者数は、コロナ禍以降大幅に増加し、2024年度は最終目標値の約8倍の数値となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○芸術・文化に関する講座等の開催事業数	事業	3	3	7	7	17	13	21	8

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数	人	263	250	254	464	1,574	1,889	2,294	296

今後の課題

- ・次期計画期間においても、市民が心豊かで潤いある生活を送るために、文化や芸術に親しむ学習機会を提供するとともに、芸術・文化活動を行う学習団体への支援や情報共有、連携を進めます。
- ・つきみ野、桜丘、渋谷学習センターはギャラリーを有していますが、十分に活用できていない状況にあるため、特別展の企画等の検討や、利用団体への周知を行うことにより、成果をさらに高めることができると考えます。

2 歴史企画展等の開催（市長部局所管 担当:文化振興課）

【関連する施策の内容】②歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。

- ・郷土の歴史資料や文化財の収集・保存・調査研究を継続的に実施し、その成果をつる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園の歴史文化3施設における企画展示、年中行事展示、講座等の事業として還元することで、市民に学習機会を提供しました。
- ・つる舞の里歴史資料館企画展示として、急速に景色を変えた戦後の市域の様子を、過去と現在の写真とともに、そこに写る風景に関わる資料を展示した「大和の今昔～写真でみる戦後の風景」や、洋画家であり、写真家であり、実業家でもあった田中清隆氏の洋画家としての側面を紹介した「大和市中で半生を過ごした近代の洋画家 田中清隆」を開催しました。



つる舞の里歴史資料館特別展示

- ・「大和の今昔」のアンケートには、「現在との比較がされていて分かりやすかったです」「昔の大和の様子が写真でわかって面白かったです」「大和市について、もっと知りたいと強く思うようになりました」などの声が寄せられました。
- ・つる舞の里歴史資料館特別展示として、文化財保護審議会会長である金子皓彦氏のコレクションの中から寄木細工を取り上げ、「金子皓彦コレクション 知られざる寄木細工の世界」をシリウスにて開催しました。期間中、金子皓彦氏によるギャラリートークや、寄木細工の職人による製作実演などを行い、10日間で2,836の方が来場しました。アンケートには、「シリウスでの定期的な展示をぜひ!!」「金子コレクションを第2、第3とやっていただけると幸いです」「生で観るべき体験するべき、会社の皆にも勧めようと思います」など、素晴らしい・感動したなどの声を多くいただきました。
- ・つる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園において、市域に伝わる年中行事の展示を実施しました。つる舞の里歴史資料館では、ひな人形・五月人形の展示において市民サークルの協力を得ており、市民の活動成果の発表の場ともなっています。
- ・郷土民家園では、指定管理者主催の自主事業を実施しました。
- ・地域に身近な文化財についての理解と関心を高めるために、体験講座「麦わら細工をつくろう」や、子供向け文化財愛護講座「古代のパワーストーン“黒曜石”でペンダントを作っちゃおう!」、講座「山を越え 海を渡り 旧石器人が大和に運んだ黒曜石」を開催しました。講座のアンケートには、「考古学に興味がありました」「2万5千年前の石、大昔に生きた人々と現代の人達がつながっているようでロマンを感じました」など好評を博しました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	※1 2020	2021	2022	2023		2024
◎つる舞の里歴史資料館企画展の開催回数	回	3	3	4	6	5	6	5	3
◎歴史文化施設の開催事業数	事業	65	65	26	45	57	55	63	65

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	※1 2020	2021	2022	2023		2024
◎つる舞の里歴史資料館で開催する企画展(3館合同含む)の来館者数	人	1,740	1,804	2,150	2,831	2,037	3,055	5,765	2,400
◎歴史文化施設の利用者数	人	54,443	47,760	37,516	50,280	42,607	37,025	39,976	61,200

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。

今後の課題

- ・市民の学習機会の充実と共に、文化財等に関する様々な情報を発信するために、魅力的な事業の実施を継続していく必要があります。
- ・受け継がれた文化財を次世代に継承するために、適切な修理や保存を行う必要があります。

[施策目標1に対する総合評価]

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

[総合評価] B

- ・市民の居場所の提供については、全施設で、『安心して学習できる場』づくりに継続的に取り組んできたことが、来館者数等の実績に表れたと考えます。
- ・また、各種の講座や教室については、従来の対面によるものに加え、オンライン等を活用するなど、コロナ禍で培ったノウハウ等を活かすことにより、2024年度には、講座に対する受講者の満足度が最終目標値を上回る結果となりました。
- ・市民一人当たりの来館回数も最終目標値を上回り、生涯各期の講座に参加する受講者数の実績も概ね増加しています。一部実績が振るわない事業はあるものの、全体で見ると施策目標1に構成される取組から、概ね期待された結果が得られたと判断し、総合評価をBとしました。

[施策目標1の目標達成に向けた施策の展開方針]

【図書・学び交流課】

○健康都市大学

- ・健康都市大学は2023年度をもって終了しました。2024年度からは健康都市大学が掲げていた、学びを通じた新たな居場所づくり、市民どうしの繋がりづくりから発展し、市民が持つ知識や技等を地域へ還元し、多くの方が学習を始めるきっかけづくりを行う「ここから マナ☆スタ」を開始しました。引き続き、市民が持つ知識や技等を地域へ還元できる学習機会の創出に努めていきます。

○生涯学習センター・図書館

- ・対面の講座と並行して、遠隔地から会場の規模等に限定されないオンライン講座を行うなど、対面とオンライン、それぞれの利点を活かした講座実施を検討していきます。
- ・市民の継続的な学習機会が確保できるように、デジタルデバイドの解消を目的とした取組を進めながら、従来の対面による講座にとらわれない、オンラインを始めとする学習機会の提供方法を指定管理者とともに検討します。

【こども青少年みらい課】

- ・ユースクラブでは、参加者が仲間とともに活動内容の企画・立案、そして、実践・反省・改善までの過程を行い、協調性、社会性等を身に着けられるよう、体験機会の確保に努めていきます。
- ・こども体験事業については、県外での宿泊研修、事前事後研修や活動発表の実施、また、それらの活動を青年実行委員によって企画、運営するなど、青少年の体験機会の確保に努めていきます。

【スポーツ×ライフ課】

- ・スポーツへの興味関心が高まるような企画内容の検討や、情報発信の工夫に取り組み、より多くの市民がスポーツに参加しやすい環境づくりに努めます。

【文化振興課】

- ・新たな企画の立案、情報発信方法の工夫、多彩な事業の実施による施設の魅力向上等に取り組み、市民の学習機会の充実に努めていきます。

施策目標2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

仲間や友人などと共に学ぶことによって、人と人とのつながりや交流が生まれます。学習活動や学習成果の発表を通じた“学びによるつながり”は、地域における交流や連帯感を深め、地域のコミュニティづくりにつながることを期待されます。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

- ・学習に関する情報提供は、これから学習活動を始めようとする人たちにとっては大きな助けとなります。
- ・誰もが気兼ねなく、学習活動に取り組むことができる支援も必要です。

【めざす姿】

学習に関する情報や相談体制が充実し、市民の学習活動が活発になる。

【施策の内容】

- ① 学習に関する情報を効果的に提供します。
 - ・必要としている人に必要とされる情報が届き、学習活動へとつながるよう、体系的かつ効果的な情報伝達をしていきます。
 - ・講座の内容や募集方法、施設の場所や利用方法、催事、人材及び団体情報など、学習に関する様々な情報を、各種情報媒体を活用し提供していきます。
 - ・関係施設に関する情報や、民間情報についても積極的に提供するなど、情報収集及び整理を行い、提供する機能を充実させます。
 - ・図書館において、幅広い分野の資料を収集するとともに、レファレンスサービスを充実することで、市民の読書活動や学習活動を支援します。
- ② 学習相談による充実した支援を行います。
 - ・学習希望者の様々なニーズに対応できるよう、適切かつ的確な学習相談による支援を行います。
 - ・学習団体に対し、学習発表等の企画立案やPR方法などの助言及び支援を行い、市民交流の促進を図ります。

個別目標2ー(1)を達成するための主な取組

1 レファレンスサービスの提供（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習に関する情報を効果的に提供します。

- ・図書館におけるレファレンスサービスの提供は、市民の自主的な学習活動を支援する図書館の基幹サービスのひとつであり、利用者の満足度向上にも直結します。
- ・成果指標である、市民一人当たりの図書の貸出冊数は最終目標値に到達していませんが、電子図書館の利用普及と合わせて貸出数の増加に努めていきます。
- ・また、リクエストについては、2024年度は324, 282件を受け付け、市民の学びたいという気持ちに応えました。
- ・各世代向けの広報媒体にレファレンスサービス提供の案内を掲載し、利用者への周知を強化しました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○図書館の蔵書数	冊	586,553	617,823	626,380	638,609	654,532	663,214	676,202	686,000
○レファレンスサービスの広報回数	回	4	2	2	2	2	4	5	8

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○市民一人当たりの図書の貸出冊数	冊	5.39	5.83	4.42	5.85	5.38	5.51	5.46	5.85
○レファレンス受付件数	件	295	456	361	405	510	432	559	302

今後の課題

- ・図書館におけるレファレンスサービスの利用数は図書館機能を計る重要な指標のひとつであり、最終目標値に到達した後も、レファレンスサービスの広報を行う媒体を増やすことを検討するとともに、質の向上に努めていきます。
- ・市民一人当たりの貸出冊数は一度目標値に到達した後、減少傾向にあり、利用者のニーズの変化を見極める必要があります。
- ・図書館の蔵書については利用者ニーズに合わせて電子図書館の充実も進めていく必要があります。
(2024年度時点の電子図書館タイトル数23,760)

2 学習情報の提供・学習相談の実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②学習相談による充実した支援を行います。

- ・学習情報をコンパクトにまとめた「MANABI支援ガイド（旧健康都市やまとMANABI支援ガイド）」や「広報やまと」、市のホームページなどを活用し、継続的に学習情報を提供しました。
- ・また、市民の多様なニーズを学習活動に結びつけていくために、窓口・電話での学習相談を適宜行いました。学習相談員数はコロナ禍で減少し、その後徐々に増加しているものの、最終目標値を下回る結果となりました。一方、学習に関する相談件数については、コロナ禍以前の件数に戻り、最終目標値を大幅に上回りました。
- ・各学習センターの利用方法について、HPのほか、電話や窓口において、学習団体へ細かく説明を行い、継続的な活動に向けた支援を行いました。



活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○学習相談員数	人	※1 32	36	34	28	29	29	31	33

※1 計画策定時（2017年）の学習相談員の数は、生涯学習センター（指定管理者）の職員と地区館（市職員）を合算。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○学習に関する相談件数	件	3,382	4,454	6,236	4,991	3,937	6,850	5,356	3,962

今後の課題

- ・インターネットの普及により、個人で多くの情報を得ることが容易になっていますが、ペーパーメディアで日ごろ生涯学習に関する情報を取得している層もいるため、ターゲットに応じた効果的な情報提供の手法を検討していく必要があります。
- ・今後も学習センターの利用方法について、様々な問い合わせが寄せられると予想されます。適切な応答、案内により、利用者の皆様にとって過ごしやすい学習環境を提供できるよう、指定管理者との情報共有等に努めます。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

[達成度]

A

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

- ・個人や団体が学習により得た知識や経験を、地域や他の学習希望者と共有することは、社会に有益であるとともに、本人にとっても大変意義のあることです。
- ・生涯学習を推進していく上では、学習者の支援とともに、学習支援者となる人材や団体を育成し活用することが重要です。

【めざす姿】

学びを支える担い手づくりが進められ、市民同士で教え、学び合うシステムの構築が進んでいる。

【施策の内容】

- ① 学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。
 - ・市民の学習活動が円滑に行われるよう学習者や学習支援者、学習団体を支援するとともに、学習成果を市民の生涯学習推進に活用します。
 - ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、継続して団体活動が行えるよう相談や支援を進めます。
 - ・子どもの読書活動に関わるボランティアの育成を図ります。

個別目標2—(2)を達成するための主な取組

1 団体利用の登録説明会の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「団体利用の登録説明会」は、これまで各学習センターで実施されてきた「利用者懇談会」のような既存の利用団体に対する利用者説明会ではなく、これまで学習センターを利用したことのない市民や団体を対象とした、施設見学と利用登録に関する説明会です。
- ・2024年度は、前年度に引き続き、最終目標値と同数の登録説明会を開催できました。
- ・学習団体の登録数は、コロナ禍における施設の休業や団体活動の休止などにより、一時減少しました。それに加えて、学習者の高齢化により、活動の継続が困難となった団体も増加していることから、最終目標値に到達することはできませんでした。しかし、2024年度の登録数は、2023年度より微増していることから、回復傾向にあると考えています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○ 団体利用の登録説明会の開催回数	回	-	1	0	0	1	5	5	5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○学習団体の登録数	団体	1,761	1,991	1,638	1,732	1,487	1,552	1,581	1,869

今後の課題

- ・新規団体の設立を促すため、単に個人学習を目的とした講座だけでなく、講座に参加した他の学習者とのつながりをつくり、グループ活動を生み出すような学習プログラムの立案を行っていく必要があります。
- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、引き続き、新規会員獲得のための支援を行っていく必要があります。
- ・学生が高校卒業後にスムーズに団体を形成できるような、学生向けの講座やサービスなどを考案し、地域の若年層の利用を促したいと考えます。

2 読み聞かせボランティア養成講座の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「こども読書よむ読むプラン」に基づき、様々な取り組みを進めるうえで、読み聞かせボランティアの存在は大変重要な人材であることから、ボランティアの育成や、その活動場所を確保する取り組みを進めました。
- ・読み聞かせボランティアを養成する講座については、それぞれの経験や技術に応じた内容とするなど、初心者から経験者まで幅広く参加できる体制を整えていました。2024年度は年間10回開催し、180人の参加がありました。講座の種類は4講座で例年と同様ですが、一部の講座で開催回数が減ったため目標値に届きませんでした。
- ・また、ボランティアの活躍の場の確保のため、大和市立図書館内でボランティアによるおはなし会を年40回実施しました。



読み聞かせボランティア養成講座

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○「読み聞かせボランティア養成講座」の開催回数	回	11	9	8	8	11	9	10	11

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○「読み聞かせボランティア養成講座」等の延べ参加者数	人	127	175	124	113	167	184	180	180

今後の課題

- ・新型コロナウイルスの影響で、読み聞かせボランティア活動から離れてしまっている方が散見されることから、再び活動の場に参加してもらえるようボランティアのモチベーションの維持向上に繋がる方策を検討していくことが求められます。

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

[達成度]

B

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

- ・学習による自己の充足だけでなく、学習活動を通じて人と人とのつながり、市民間の交流を促し、地域コミュニティの形成につなげていく必要があります。

【めざす姿】

学習活動や学習成果の発表を通して、地域コミュニティが生まれている。

【施策の内容】

- ① 市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。
 - ・日頃の学習活動、学習成果を発表できる場を設けるとともに、参加者への支援や内外への周知を積極的に行い、学習による市民相互交流や地域コミュニティの形成を促します。
- ② 市民の交流機会を創出する学習団体を支援します。
 - ・学習活動や学習成果の発表などにより、市民交流の創出を推進する学習団体を支援します。

個別目標2—(3)を達成するための主な取組

1 学習センターまつりの開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・2024年度の学習センターまつりは、5館全てで実施しました。
- ・各学習センターにおいて、利用団体の活動成果の発表と作品展示の場を設けるとともに、来場者が参加できるイベントや体験型の展示などを実施しました。団体と来場者の方々の貴重な交流の場となり、日頃の学習活動の成果を地域に還元することができました。
- ・成果指標である学習センターまつり参加団体数については、2023年度よりもさらに減少し、最終目標値を下回る結果となりました。コロナ禍以前の実績、さらには最終目標値に達するためには、より多くの団体に声掛けを行い、運営方法を精査、吟味していく必要があります。



活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○学習センター まつりの回数	回	5	5	3	5	4	5	5	5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○学習センター まつり参加団体 数	団体	170	159	80	112	95	134	123	180

今後の課題

- ・各学習センター活動団体による学習活動や学習成果の発表の場として「学習センターまつり」は、継続的に実施されていますが、同じ学習センター内での交流に留まる傾向があります。
- ・今後については、例えば、つきみ野学習センターで活動する団体を、渋谷学習センターまつりへと招待して参加を促すなど、異なる地域を活動拠点とする団体間の交流を活性化させ、新たな繋がりを生み出すための取り組みを充実させる必要があります。

2 交流機会創出のための支援（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・市民の交流機会を創出するために、各学習団体が、まなびの輪支援事業で開催する市民対象の体験講座や自主事業の周知・広報活動の支援を行いました。
- ・まなびの輪支援事業では、各団体の取り組みに参加してもらうだけでなく、団体の取り組みに興味を持ってもらい、新規会員を取り込むことも目的の1つであるため、各団体で実施回数や内容を工夫しながら、地域住民同士の交流や、地域活動の推進が行われています。
- ・学習団体の広報回数及び活動支援件数は最終目標値に達しなかったものの、学習センターはポスター・チラシ作成や配架等による事業周知を継続して行っています。また、学習団体も事業の複数開催や規模の拡大等で積極的に「まなびの輪支援事業」を活用していることから、広報回数と講座等参加者数は2023年度よりも大幅に増加しました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○学習団体による講座等の広報回数	回	-	948	223	338	439	477	756	800
○まなびの輪支援事業説明会の実施回数	回	5	3	4	5	4	5	5	5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○学習団体による講座等参加者数	人	3,218	2,898	728	972	918	2,971	4,180	3,695
○学習団体の活動支援件数	件	99	62	27	24	31	66	64	105

今後の課題

- ・今後も学習団体の活動をより活発にしていく必要があり、そのためには成果を発表する機会や意欲を創出するような事業の周知・支援を行っていきます。また、学習団体と地域との結びつきを高めていく必要があります。

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

[達成度]

B

[施策目標2に対する総合評価]

施策目標 2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

[総合評価]

B

- ・学習情報の提供や学習相談については、団体の活動内容をきめ細かく説明するなど、学習を通じた人と人との交流の輪を広げるきっかけになったと考えます。
- ・学習団体による主体的な講座等の企画運営、学習成果の地域還元については、実際に講座を通じてサークルがつけられ自主的な活動が続けられるようになるなど、明確な発展が見られました。
- ・しかし、学習センターが主催する学習機会については継続的に提供しているものの、施策目標2が目指す地域における交流や連帯感の醸成の水準には未だ到達できていないと判断し、施策目標2の総合評価としてはBとしました。

[施策目標2の目標達成に向けた施策の展開方針]

【図書・学び交流課】

○学習センター

- ・今後も学習センターまつりが継続的に行われ、参加団体数が減少せず、また異なる地域の団体相互の交流も活性化するよう、実行委員会のモチベーションの維持と向上を目指してフォローを行います。
- ・学習団体が行う、新規会員獲得のための広報周知活動の支援を継続して実施していきます。

○図書館

- ・ボランティア養成講座を引き続き行い、読み聞かせボランティアの育成に力を注ぐとともに、ボランティア団体同士の情報交換などを通じて、ボランティアの活躍の場を広げていきます。

施策目標3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります

施策目標1・2を達成するためには、学習のための環境づくりや仕組みづくりが欠かせません。そのためには、施設の適切な維持管理や機能の充実、生涯学習を支援・推進する体制の充実、関係機関との連携推進を図る必要があります。

個別目標3-1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

- ・生涯学習を推進するためには、安全で快適な学習環境の提供とともに、それを維持していくことが大切です。
- ・市民の学習ニーズの多様化にも、対応していけるような施設の維持及び更新が必要です。

【めざす姿】

市民が快適な環境で学習している。

【施策の内容】

- ① 学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
 - ・安全で快適な学習環境を提供するため、学習施設の適切な維持管理を行うとともに、様々なニーズに対応するための機能の充実を図ります。
 - ・学習センター全館を指定管理者による管理運営とし、民間のノウハウを活用した学習機会の提供や効率的な管理運営を図ります。

個別目標3-1)を達成するための主な取組

1 学習環境の向上に関する取組 (市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】①学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。

- ・つきみ野学習センターは建物及び各設備の老朽化が進んでいたことから、今後も学習施設として安全かつ快適にご利用いただけるように、2021年12月末から2023年4月9日まで休館し、施設の大規模改修工事を行いました。また、2023年7月18日～8月4日までは空調設備追加工事を行いました。これにより電源やLANの追加、オーディオ機器の入れ替え・老朽化した空調設備の更新など、学習のための機能を充実させることができました。
- ・各学習センターで実施した利用者懇談会は、コロナ禍以降、各館年1回の開催となったため、最終目標値に到達することはできませんでした。社会教育関係団体を始めとする利用団体から、利用方法について出された意見を踏まえ、施設設備の改修状況や、事故及びトラブル対策について報告するなど、適宜サービスの見直しを行い、学習環境の向上に努めました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○利用者懇談会の実施回数	回	5	※1 2	4	5	4	5	5	10

※1 2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学習センター3館で各1回中止となった。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○アンケートによる利用者の満足度	%	—	81	83	84	86	88	90	80

今後の課題

- ・2019年度以降、利用者満足度は着実に上昇し続けています。満足度をさらに向上させるため、今後も利用者の様々なニーズを聴き取り、応えていくための機能の充実を図ります。
- ・次期計画期間である2025年度に、桜丘学習センターの高圧ケーブル更新を予定しています。引き続き、老朽した設備の更新など、利用者の安全面を考慮した上で学習環境の向上を図ります。

個別目標3—(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

[達成度] **A**

個別目標3—(2) 支援・推進体制の充実

- ・学習活動の充実を図る上で、行政各部門の専門性を活用することも、有効な手段となります。
- ・また、行政の施策等を効果的かつ効率的に進めていくには、有識者の意見等を参考にしながら、有効な方策等を検討することも必要です。

【めざす姿】

行政の知識や経験が市民の学習活動に活かされているとともに、生涯学習を進めていく方策が検討されている。

【施策の内容】

- ① 行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。
 - ・行政の専門知識を市民の学習の場で活用し、市民の学習活動を支援します。
 - ・より効果的かつ効率的な学習支援を図るため、行政各部門と緊密に連携するとともに市民への幅広い情報提供を行います。
- ② 学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。
 - ・学識経験者が参画する学びに関する各種会議を開催し、生涯学習推進に向けた方策の検討等を行います。
 - ・各種会議の審議等を通じて、行政の施策等を適正かつ効率的に実施します。

個別目標3一(2)を達成するための主な取組

1 どこでも講座の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。

- ・開かれた市政の推進及び市民の市制運営への意識を醸成し、生涯学習によるまちづくりの振興を図るため、研修会や学習の場に専門的な知識を持つ市役所各課の職員を講師として派遣する、生涯学習出前講座「どこでも講座」を実施しました。
- ・成果指標のどこでも講座の延べ参加者数は、2023年度に一時大きく増加したものの、「どこでも講座」を申し込む団体数の減少に伴い、2024年度は実績値が減少し、最終目標値を下回る結果となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○「どこでも講座」の開催事業数	事業	88	88	88	91	92	90	86	88

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○「どこでも講座」の延べ参加者数	人	452	310	58	102	254	485	255	630

今後の課題

- ・どこでも講座のメニュー数の維持及び内容の改善を図る取り組みとともに、受講者を増やすための周知方法についても、現状のツール（ガイドブックや市のHP）以外の方法を検討します。
- ・市民が生涯学習活動に継続して取り組めるよう、支援する専門職員である社会教育主事・社会教育士を図書・学び交流課に配置し、専門的・技術的な指導・助言を行いながら学習意欲を高めるための働きかけを行っていきます。

2 審議会等の運営（市長部局所管 担当:スポーツ×ライフ課）(教育委員会所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】②学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。

- ・社会教育委員会議では、2015年に行われた社会教育委員と教育委員との情報交換会をきっかけに、家庭教育支援講座の提案がなされ、社会教育主事の企画を元に社会教育委員会議で検討し、コミュニティセンターやゆりの森など地域の身近な場所を利用したアウトリーチ型の家庭教育支援(※)講座を実施してきました。
(※)「アウトリーチ型の家庭教育支援」とは、保護者の居場所に向き、働きかける家庭教育支援の方法です。
- ・この講座は、研究調査の一環として実施されたものであり、2023年度はこれまでの活動や研究した内容を整理し、提言書『子どもの育ちを支える家庭教育の支援のあり方について』としてまとめました。提言書は社会教育委員によって大和市教育委員会へ提出され、提言書の説明および情報交換が行われました。
- ・2024年度は、大和市生涯学習推進計画の改定について、審議を行いました。次期計画へは社会教育委員会議で作成した提言書の内容を盛り込みました。

- ・スポーツ推進審議会では、主に指定管理者の評価についてや、大和市スポーツ推進計画について審議を行いました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
◇審議会等の開催回数(スポーツ推進審議会)	回	3	2	3	3	3	3	5	5
○審議会等の開催回数(社会教育委員会議)	回	4	※1 4	4	4	※2 5	4	※3 6	4

※1 社会教育委員会議は臨時会を1回開催しました。また、第4回定例会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

※2 社会教育委員会議は臨時会を1回開催しました。

※3 社会教育委員会議は臨時会を2回開催しました。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
◇スポーツ推進審議会審議案件数	件	6	2	8	6	7	7	11	6
○社会教育委員会議審議案件数	件	8	6	5	6	5	8	9	8

担当：○図書・学び交流課、◇スポーツ×ライフ課

今後の課題

- ・社会教育委員会議では、アウトリーチ型の家庭教育支援講座を2018年から自ら主宰して実施してきましたが、今後はこうした取り組みを地域が主体的に担い、持続可能な地域ぐるみの支援体制づくりを目指し、取り組んでいく必要があります。

個別目標3—(2)支援・推進体制の充実

[達成度]

B

個別目標3—(3) 関係機関との連携推進

- ・市民の学びの裾野を広げていくなかでは、学びに関わりのある様々な組織や個人の協力を得ながら取り組んでいく必要があります。

【めざす姿】

多くの組織や個人が行政と連携して、市民の学習活動に貢献している。

【施策の内容】

- ① 学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
 - ・学校との連携を図りながら、学校施設を地域の「学びの場」として開放します。
 - ・民間教育機関、市民の学習団体や個人ボランティアなどとの連携により、その教育力を生涯学習推進施策に活用します。
- ② 地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。
 - ・地域で活躍する各種団体や機関と連携し、学習のための環境づくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成や活性化を図るため、団体等の活動を支援します。
 - ・地域スポーツを支えるスポーツ指導者の育成やスポーツ環境を充実させ、地域スポーツの振興と安全なスポーツ活動を推進します。

個別目標3—(3)を達成するための主な取組

1 地域ボランティア・団体との連携（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

（教育委員会所管 担当:こども青少年みらい課）

- 【関連する施策の内容】
- ①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
 - ②地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。

- ・学習センターでは、市民のさまざまな学習ニーズに応じるために、パソコン・語学・手工芸など、趣味的なものから専門的なものまで、各分野の知識・技能・経験をお持ちの方を生涯学習ボランティア講師として登録し、学習者の希望に合った講師を紹介する、やまと生涯学習ねっとわあくを運用しています。
- ・やまと生涯学習ねっとわあく制度を広く知っていただくため、ボランティア講師を活用した「小学生夏休み体験講座」を行いました。
- ・成果指標である、ボランティア講師の利用件数については、講師の高齢化に伴い、二年に一度の登録更新を取りやめる方がいるなどの理由から、2019年度の計画初年度よりも大きく減少し、最終目標値も下回りました。
- ・そのため、2024年度は「小学生夏休み体験講座」以外に、シリウスの健康テラスで開催している「ここから マナ☆スタ」で、ボランティア講師による特別講座を2回実施し、講師が持つ豊富な知識や技術、そして「やまと生涯学習ねっとわあく」の制度を広く知ってもらう機会の創出に努めました。
講師登録数の総数はコロナ禍前の水準と比べ低い状況にあります。

- ・青少年指導員は、各専門部会を開催するとともに、地域の実情に合わせた活動（工作やどんど焼き等）を展開し、青少年健全育成に取り組みました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○ボランティア講師登録数	人	171	159	126	131	115	120	106	153
●青少年指導員の委嘱人数 ※1	人	106	107	96	94	98	95	87	120

※1 地方公務員法及び地方自治法の改正により、特別職非常勤職員であった青少年指導員が、2020年度からは教育行政協力員とされたため、現在は委嘱ではなく、依頼を行っています。

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値						最終目標値 (2024)
			2019	2020	2021	2022	2023	2024	
○ボランティア講師利用件数	件	22	6	1	3	3	5	3	25
●青少年指導員の活動延べ日数	日	430	430	86	144	274	383	362	456

担当：○図書・学び交流課、●子ども青少年みらい課

今後の課題

- ・今後は、やまと生涯学習ねっとわあくにおいてもオンライン環境を活用した、より利用しやすい相互の教え合いや学び合いの場の提供を検討する必要があります。また、指定管理者と連携しながら、制度そのものをアピールする機会を増やします。

2 学校開放事業の実施（教育委員会所管 担当：図書・学び交流課・スポーツ×ライフ課）

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。

- ・市民の生涯学習の場として市内の小・中学校9校を、スポーツ活動の場として市内すべての小・中学校である28校を開放しています。
- ・学校の校庭や体育館だけでなく、音楽室・調理室・技術室などの特別教室も開放しており、様々な団体に利用いただいています。
- ・2020年度から2021年度にかけては、コロナ禍における中止のため、利用者数が大幅に減少しました。第5類移行後は一時回復したものの、学校の活動のため市民が利用できる枠が限られるケースがあったこと、定期的に利用していた団体が活動を停止したこと等によって、2024年度の利用者数は減少し、最終目標値には至りませんでした。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、スポーツ開放利用件数が減少していましたが、コロナ禍前の水準に戻ってきています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○特別教室開放施設数	施設	9	9	9	9	9	9	9	
◇学校施設のスポーツ開放利用団体数	団体	456	430	414	399	405	385	395	480

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2024)	
			2019	2020	2021	2022	2023		2024
○特別教室開放利用者数※1	人	16,094	16,038	2,286	4,730	7,967	10,148	8,513	18,124
◇学校施設のスポーツ開放利用件数 ※2	件	14,350	13,279	7,205	9,625	13,625	14,103	14,300	15,233

担当：○図書・学び交流課、◇スポーツ×ライフ課

※1 特別教室開放については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため以下の期間中止しました。

2020年度：4月～8月、1月9日～3月21日

2021年度：4月28日～6月20日、7月22日～31日、8月26日～9月30日

※2 スポーツ開放については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため以下の期間中止しました。

2020年度：3月2日～7月14日、1月9日～3月21日

2021年度：4月28日～6月20日、7月22日～31日、8月26日～9月30日

今後の課題

- ・特別教室開放の存在を知らないために利用していない方もいると思われるため、ニーズを汲み取りつつ、学校施設を地域の「学びの場」として周知する効果的なPR活動を検討していく必要があります。
- ・学校施設のスポーツ開放では、校庭や体育館などの施設利用率が高くなっているため、施設ごとの稼働率を考慮した利用方法等の検討を行っていく必要があります。

個別目標3—(3)関係機関との連携推進

[達成度]

C

[施策目標3に対する総合評価]

施策目標 3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります	[総合評価] B
-----------------------------	----------

- ・利用者懇談会での意見等をもとに日々見直しを行い、快適な学習環境となるよう努めており、2019年度以降、来館者アンケートにおける利用者満足度は着実に上昇し続けています。今後も利用者の様々なニーズを聴き取り、応えていく必要があります。引き続き、利用者の安全面を考慮した上で学習環境の向上を図りたいと考えます。
- ・どこでも講座、生涯学習ねっとわあく、学校開放事業は、地域のボランティアや他の団体と連携、協力して実施しているものであり、これらについては適切に運用が図られていると考えますが、その一方で利用率については、成果を高める余地はあったと考え、施策目標3の総合評価としてはBと判断しました。

[施策目標3の目標達成に向けた施策の展開方針]

【図書・学び交流課】

- ・引き続き、利用者の声を活かしながら、学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
- ・利用者懇談会での意見や来館者アンケートなどをもとに改善した内容を、館内に取組み状況として掲示します。
- ・特別教室開放事業は、学習センターに比べ、利用率や開放校の認知度は、まだ少ないものと捉えています。近隣の学校を生涯学習活動に活用できるよう、学校との連携を図りながら、学習センター利用団体に対するPRの方法を検討します。

【スポーツ×ライフ課】

- ・学校開放事業実施委員会と連携を図りながら、学校施設を利用してスポーツ及びレクリエーション活動の場を提供することで、地域の利用者のスポーツ活動を促進し、健康増進を行っていきます。

【こども青少年みらい課】

- ・子どもが様々な体験活動を通して学ぶための環境や仕組みを充実させるためには、青少年指導員をはじめとする地域の各種団体や機関などが協力していくことが不可欠であり、相互に連携を図っていけるよう支援していきます。

— 事務担当 —

教育部 教育総務課 政策調整係

Tel 046 (260) 5203 (直通)

健幸・スポーツ部 図書・学び交流課 学び交流係

Tel 046 (259) 6104 (直通)